

第1学年 図画工作科学習指導案

1組 25人 (男子9, 女子16)
指導者 鹿子木 美香

1 題材 ふしぎないきもの けんきゅうじょ (絵や立体で表す) 2 題材について

(1) 題材の価値

本題材は、可塑性に富む粘土で、不思議な生き物の様子を想像しながら立体に表す学習である。

本学級の子どもたちは、これまでに見てきた動物などを粘土で表す学習を通して、思いをふくらませながら形に表したり、自分の作品と同化しながら遊んだりするなど、思いのままに表現する経験をしてきている。また、簡単に形をつくりかえることができる粘土のよさに気づき、次々に試しながらつくり続ける姿が見られ、粘土の扱い方にもある程度慣れてきている。さらに、動物の鳴き声を聞いたり、動物の動きをまねたりすることで、自分の思いがふくらんだり、かたまったりすることに気づき始めている。また、できた作品を互いに見せ合ったり、感じたことを話したり聞いたりする姿も見られるようになった。

そこで本題材では、不思議な生き物研究所の一員として、見たり聞いたりしたことのない不思議な生き物を粘土でつくり出す学習を進めていくことで、不思議な生き物を楽しく想像したり、つくったりすることができる。また、形や触感、動きなどの特徴を含んだ不思議な生き物の名前を手がかりに、不思議な生き物への思いをふくらますことができ、粘土を丸めたり、つまみ出したりしながら、思いのままに不思議な生き物をつくるすることができる。さらに、友達と一緒につくったり遊んだりする中で、自分の作品や友達の作品のよさに気づき、活動をより広げていこうとする態度を育てていくことができる。このような学習を通すことで、子どもたちは生活の中でも想像しながら絵や立体で表すことを楽しむ態度を身に付けることができると考える。

(2) 子どもの実態

本題材に関する学級の実態は以下のとおりである。

[調査人数25人 () は人数 重複回答あり]

① 図画工作のどんなところが楽しいですか。

- ・ 絵をかいたり、いろいろなものをつくったりすること自体が楽しい。(24)
- ・ 友達と一緒にできるところが楽しい。(21)
- ・ 絵をかいたり、つくったりしながら、いろいろなことを思い浮かべるところが楽しい。(17)
- ・ 自分が思ったとおりにできるところが楽しい。(12)
- ・ いろいろな活動(絵、工作、造形遊びなど)ができるところが楽しい。(5)

② かきたいものやつくりたいものなどを考えるとき、どうするとやりやすいですか。

- ・ かいたり、つくったりして、いろいろと試みる。(18)
- ・ 友達の活動や作品を見て参考にする。(14)
- ・ 友達や先生と話をする。(13)
- ・ 実際に自分の体を動かす。(11)

③ 粘土を使って遊ぶことは好きですか。また、その理由は何ですか。

- 好き(24) ・ 何回でもつくりなおせるから(20)
- ・ いろいろな形になるから(18)
- ・ 粘土をさわると気持ちがいいから(15)
- ・ 丸めたり、のぼしたりするのが楽しいから(14)
- 嫌い(1) ・ 何をつくれればいいのか分からないから、手が臭くなるから

④ 粘土を丸める、のぼす、平らにするなどができる。

- ・ ちぎる(25) ・ 穴をあける(25) ・ 平らにする(24) ・ のぼす(24)
- ・ 丸める(23) ・ つまみ出す(22)

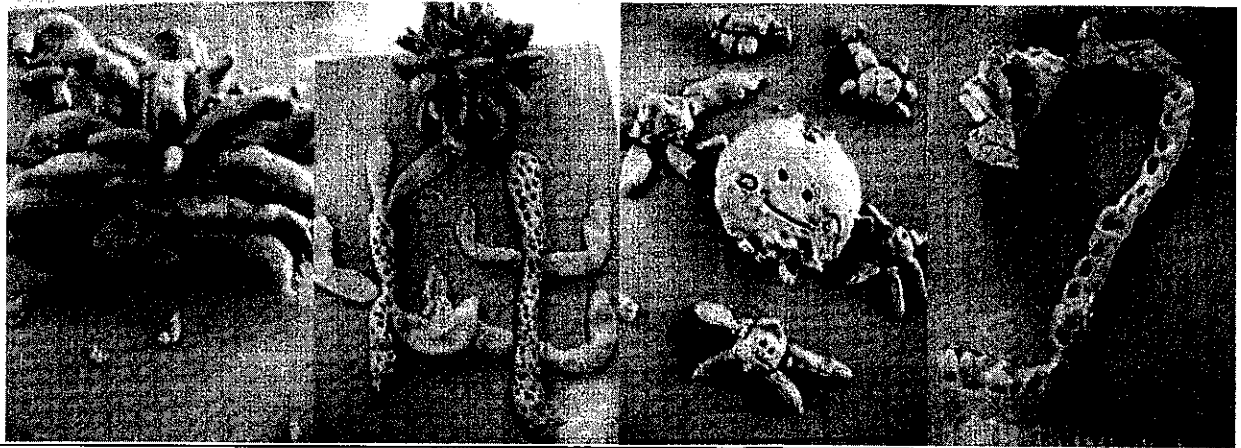
⑤ 「トゲッチ」という名前の生き物を想像して、粘土でつくりましょう。

〈A児〉

〈B児〉

〈C児〉

〈D児〉



本学級の多くの子どもたちは、図画工作の学習が大好きで、絵をかいたり、何かをつくったりする活動そのものや、友達と一緒に活動できることを楽しみながら、意欲的に学習に取り組んでいる。

(①) 子どもたちは、これまでの図画工作の学習を通して、作品をつくる際にいろいろと試してみたり、友達と一緒に活動したり、動作化したりするなどの思いをもったりふくらましたりするための手だてに気づき始めている。(②) また、ほとんどの子どもが、何回もつくり直せたり、容易に形を変えたりできるという粘土のよさに気付いており、粘土を使って遊ぶことが好きである。(③) さらに、子どもたちの多くが、丸める、つまみ出すなどの方法を使って粘土を取り扱うことができる。(④)

しかし、実際には、思いをもったりふくらましたりするための手だてをうまく生かせず、思いをふくらますことのできない子どもや、どのように思いを表せばよいか分からず、活動になかなか取りかかることのできない子どももいる。また、丸める、つまみ出すなどの方法を生かして思いのままに表現する経験については、まだ不十分と言える。

本題材に関する発想や構想の能力を見たところ、どの子どもも見たり聞いたりしたことのないものについて関心を示しながら、いろいろな想像を楽しんだり、活動を楽しんだりする姿が見られた。例えば、A児やB児のように粘土をひとかたまりとしてダイナミックに思い描いてつくっている子どもや、お話を思い浮かべながらつくっている子どももいる。しかし、C児のように思いをふくらます際に粘土の特徴を十分に生かすことのできない子どもや、D児のように思いをなかなかふくらますことができている子どももいる。(⑤)

これらのことから、粘土を丸める、つまみ出すなどの方法を生かしてつくったり、試みたりしながら、思いのままに表す楽しさを味わう場を十分に保障するとともに、見たり聞いたりしたことのないものについて思いをふくらませやすいような題材提示の仕方を工夫することが必要であると考えられる。

(3) 本題材で高めたい「学び方」

思いをもつために
思いをふくらますために
思いをあらわすために
思いをあげわうために

五感を働かせる。(ア)
知っているものを組み合わせる。(イ)
動作化する。(ウ)
友達と話したり聞いたり、話し合ったりする。(エ)
試しにやってみる。(オ)

(4) 指導に当たって

以上のような子どもの実態を踏まえ、本題材の目標を実現していくために次のような点に留意して指導していきたい。

「思いをもつ」過程では、不思議な生き物研究所の一員として、見たり聞いたりしたことのない不思議な生き物を粘土でつくり出すというストーリー性をもたせたり、教室全体を研究所をイメージした空間にしたりすることで、子どもたちが想像することを楽しみながら、意欲的に表現できるようにする。また、形や触感、動きなどの特徴を含んだ不思議な生き物の名前を提示することで、言葉から受ける感じを手がかりに、自分がつくりたい不思議な生き物について思いをふくらますことができるようにする。さらに、表したいものの特徴やおもしろさについて全体で話し合うようにすることで、学習への関心や意欲を高めることができるようにする。

「思いをふくらます・思いをあらわす」過程では、一人一人の考えを称賛することで、つくりな

から思い付いたことを付け加えたり、つくり直したりしながら活動を進めることができるようにするとともに、想像する楽しさや、自分の思いに合わせて形をつくり出す楽しさを味わうことができるようにする。また、粘土を丸める、つまみ出すなどの方法を生かしたり、試したりしながらつくるようにすることで、思いのままに表す楽しさを味わうことができるようにする。さらに、つくった作品をジオラマの上で動かすなどしながら、互いに見せ合ったり、感じたことを話したり聞いたりすることで、自分の作品や友達作品のよさに気付くことができるようにする。

「思いをあげよう」過程では、互いの作品を鑑賞する場を設定し、作品のよさに気付き、表現できた喜びを味わうことができるようにする。

3 題材の目標

内容のまとまり	観 点	目 標
A 表現	造形への関心・意欲・態度	不思議な生き物を楽しく想像したり、つくったりしようとする。
	発想や構想の能力	言葉から受ける感じを手がかりに、不思議な生き物について思いをふくらますことができる。
	創造的な技能	言葉から受ける感じを生かして、粘土を丸めたり、つまみ出したりしながら、不思議な生き物をつくることができる。
B 鑑賞	造形への関心・意欲・態度	友達と一緒につくったり遊んだりする中で、作品を触ったり、手にしたり、作品について話したり、聞いたりしながら見ようとする。
	鑑賞の能力	自分の作品や友達作品のよさに気付くことができる。

4 題材の指導計画 (全2時間)

○ 教師の指導 ◆ 重点評価項目

過程	時	主な学習活動	学方	教師の指導と重点評価項目や評価方法
もつ	1	1 自分がつくりたい不思議な生き物について想像したり、話し合ったりする。 2 題材全体のめあてをつかむ。	ア イ ウ	○ 研究所からのメッセージが入ったVTRを見ることで、題材への関心や意欲を高めることができるようにする。 ○ 形や触感、動きなどの特徴を含んだ不思議な生き物の名前を提示することで、言葉から受ける感じを手がかりに、自分がつくりたい不思議な生き物について思いをふくらますことができるようにする。
		<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ふしぎな いきものを たのしく そうぞうしながら つくろう。</div>		◆ 言葉から受ける感じを手がかりに、自分がつくりたい不思議な生き物について思いをふくらますことができるか。【発・関・観察・発言】
ふくらむ・あらわす	1	3 粘土で自分がつくりたい不思議な生き物を、思いのままに表す。 ・ つくりたい不思議な生き物をつくる。 ・ つくった作品で遊ぶ。	ウ エ オ	○ 一人一人の考えを称賛することで、つくりながら思い付いたことを付け加えたり、つくり直したりしながら活動を進めることができるようにするとともに、想像する楽しさや、自分の思いに合わせて形をつくり出す楽しさを味わうことができるようにする。 ○ 粘土を丸める、つまみ出すなどの方法を生かしたり、試したりしながらつくるようにすることで、思いのままに表す楽しさを味わうことができるようにする。 ○ 粘土の塊からできた形を、いろいろな不思議な生き物に見立てて思いをふくらましている子どもを称賛し、表現のよさが他の子どもにも広がっていくようにする。 ○ 表現することに抵抗を感じている子どもには、教師と一緒に粘土で遊んだり、つくりたい不思議な生き物についての思いを聞いて引き出したりすることで、自分の思いをふくらますことができるようにする。 ○ ジオラマを提示し、その上で作品を動かしながら遊んだり、作品を見せ合ったりすることで、自分の作品や友達作品のよさに気付くことができるようにする。
				◆ 言葉から受ける感じを生かして、不思議な生き物をつくることができるか。【発・技・観察・発言、作品】 ◆ 自分の作品や友達作品のよさに気付くことができるか。【鑑・関・観察・発言】
あげよう		4 みんなでつくった作品で楽しく遊んだり、互いの作品を紹介し合ったりする。	エ	○ みんなでつくった作品で遊んだり、互いの作品を紹介し合ったりする場を設定することで、作品のよさに気付き、表現できた喜びを味わうことができるようにする。

